



# Washington D.C. Political and Economic Report

Masaharu Takenaka 竹中 正治

ワシントン駐在員事務所 所長

(202)463-0477, [mtakenaka@us.mufg.jp](mailto:mtakenaka@us.mufg.jp)

2006年11月8日

ワシントン情報 (2006/No.070)

## 民主党が大勝：米国連邦議会中間選挙結果

～低下した共和党の求心力～

米国連邦議会の間選挙結果は、概ね直前の選挙予想通りに民主党大勝の結果となった（ワシントン情報 066、10月20日、参照）。8日午後3時（米国東部時間）の時点では、民主党は下院で少なくとも28議席を獲得し下院多数派となった。また上院では少なくとも5議席を獲得。今回の民主党の大勝の原因は、直接的には共和党が求心力を失い、同党支持層からの投票率が低下したことに求められる。

### 【議会中間選挙結果概要】

今年の間選挙で民主党が多数派を奪回するためには、下院で15議席、上院で6議席獲得する必要があった。今回民主党は下院で少なくとも28議席を獲得し、1994年以来12年ぶりに多数派を奪回した。上院では民主党が5議席を獲得したが、多数派奪回は接戦となったバージニア州の再集計にかかっている。バージニア州の上院選挙では、民主党新人候補の James Webb 氏が共和党現職の George Allen 上院議員を僅かにリードしているが、僅差のため11月末に再集計が行われる。現時点で発表されている選挙結果は以下の通り。

### 下院（定数 435 議席、全員改選）

政党	当確	追加/減少
共和党	196	-27
民主党	228	+28

未決定：11 議席

### 上院選挙（定数 100 議席、改選 33 議席）

政党	非改選	当確	改選後	追加/減少
共和党	40	9	49	-5
民主党	27	23*	50*	+5*

未決定：1 議席（バージニア州は接戦で再集計に持ち込まれる見通し。）

\*民主党の議席数には無所属で出馬しているが民主党支持を受けた Bernie Sanders 下院議員（バーモント）と、予備選挙で民主党指名を逃し、無所属で出馬した Joseph Lieberman 上院議員（コネカット）の2名を含む。



今回の選挙では議会中間選挙のみならず、州知事選でも民主党が大勝利した。全米 50 州のうち改選となった 36 州の州知事選で、18 州で民主党候補の当選が確実となっている。すなわち非改選 8 州を合わせると、民主党は 12 年ぶりに全米過半数の州知事を獲得した。

### 【共和党の敗因：求心力低下による自壊】

今回の選挙で民主党の大勝、共和党の大敗をもたらした背景は、これまでの当レポートで報告済みであるが、新しい論点を加えて整理すると以下の通り。

#### <イラク戦争>

イラク駐留米兵の 10 月の犠牲者の数は 103 人に上り、国民のイラク戦争に対する嫌気が広がっている。10 月中下旬にニューズウィーク、CNN などが行った世論調査によると、Bush 大統領のイラク政策を「支持する」と答えたのが 34%、「支持しない」と答えたのが 64%、また「米国はイラクの治安回復に向けて前進していると思うか、それとも敗退していると思うか」という問いに対して「米国は敗退している」と答えたのが 60%、「前進している」と答えたのが僅か 29%であった。

また「どちらの党がうまくイラク問題に対応できると思うか」という問いに関しては、「共和党」と答えたのは 33%、「民主党」と答えたのが 45%で、この数字は夏以来さほど変わっていない。ただし、今年 3 月から 9 月半ばにわたる数回の世論調査では、「イラク問題に関して民主党は明確な計画を持っていると思うか」という問いに対して「イエス」と答えたのが 25%、「ノー」と答えたのが 67-68%程度であった。つまり、国民はイラク問題を共和党の「負の財産」とみなしており、民主党がイラク問題について、より良い、あるいは明確なビジョンを持っているとは評価していない。また、Rumsfeld 国防長官の解任が 8 日に発表されたことは、この選挙戦でイラク問題がいかに共和党不利に働いたかを象徴している。

#### <ヒスパニック系の共和党離れ>

共和党敗因のもうひとつの原因は、移民法改革問題を巡ってのヒスパニック系住民の共和党離れである。ヒスパニック系有権者は Bush 政権以前には、概略的には民主党支持層 7 割、共和党支持層 3 割と、伝統的に民主党の支持層であった。しかし、メキシコ人の多いテキサス州出身でスペイン語を話す Bush 大統領は、2000 年の大統領選挙でヒスパニック票の 35%、さらに 2004 年の再選時には 44%を集め、共和党大統領としては史上最高のヒスパニック票を獲得した。更に 2004 年の選挙では議会の共和党議員にもかなりのヒスパニック票が流れた。

しかし今年の議会中間選挙では移民法改革を巡って、ヒスパニック系有権者が、共和党伝統保守派の「反移民政策」に強く反発。さらに米軍兵士としてイラクに駐留している兵士にヒスパニック系移民が多く、死傷者が増えていることなどが影響して、ヒスパニック系有権者の共和党離れが顕著になった。ヒスパニック系非営利組織、The Latino Coalition が 10 月初めにヒスパニック系有権者を対象に行った世論調査によると、議会中間選挙でどちらの党を支持するかという質問で、「民主党」と答えたのが 56%、「共和党」と答えたのは僅か 19%にとどまったという。



### <スキャンダルによるキリスト教保守派層の支持低下>

既報の通り、共和党は選挙を控えていくつかのスキャンダル発覚に見舞われ、民主党に「腐敗政治」のレッテルを貼られる結果となった。共和党にとって最大の打撃となったのは、Mark A. Foley 議員（共 フロリダ、52歳）が、議会で働く少年らに猥褻Eメールを送っていた事件が9月末に発覚したことである。同議員は事件発覚後直ちに辞職したが、事前に問題を知っていた共和党指導部による隠ぺい疑惑が浮上、共和党のイメージが一気に悪化した。同議員のスタッフが Dennis Hastert 下院議長（共 イリノイ）に本件を警告したにもかかわらず、何ら措置も取られなかったことから、Hastert 議長の責任が問われ、議会では依然として同議長の辞任を要求する声強い。

その後さらに共和党のダメージコントロールを困難にしたのは、カトリック教徒である Foley 議員が、辞職直後にアルコール依存症を含む精神面での治療のための施設に入所したが、弁護士を通じて同性愛者であることを告白したことである。その結果、共和党の支持基盤で伝統的な道徳・価値観の擁護を重視する保守的キリスト教徒に大きな衝撃を与える結果となった。中絶や同性愛ばかりか、婚前交渉すら「非道徳」として拒否する道徳的保守層にとって、共和党議員の起こした同問題は党への信頼を大きく揺るがし、キリスト教保守派の間では、投票を棄権したり、民主党候補に投票する動きが顕著となった。

### <リバタリアン系保守層の共和党離れ>

これまでの当レポートではふれなかったが、共和党支持層の求心力低下として見逃せないポイントがリバタリアン系保守層の共和党離れである。リバタリアンとは、「他人の自由を侵すか、又は他人への害とならない限りにおいて、自己とその財産を自由に出来るべきである」と提唱する徹底した個人主義を基調とする政治信条である。すなわちリバタリアン系保守層は、個人の自由を重点を置き、それを保障するための「必要最小限の政府の存在」を支持する。経済的自由を重視する点で、政府規制や課税を通じた政策課題の実現を追求する米国のリベラル主義と対極をなす<sup>1</sup>。また道徳的保守層が同性婚や中絶に強い拒否感を示し、法律で禁じるべきと考える一方で、そうした価値観、道徳の選択は個人の自由である故に政府は介入すべきではないと考える点で、リバタリアンは道徳的保守層とも異なる。

減税や規制緩和などによって「小さい政府」を主張する共和党は、伝統的に多くのリバタリアン系保守層の票を獲得してきた。しかし Bush 政権の下では、リバタリアンの共和党離れが指摘されている。当地のリバタリアン系シンクタンク、Cato Institute の研究員、David Boaz 氏と David Kirby 氏が先月発表した報告書（“The Libertarian Vote”）<sup>2</sup>は、リバタリアンの投票傾向の変遷を分析したものである。

同報告書によると、リバタリアンに分類される傾向を強く持つ有権者は有権者全体の 9-14% 程度であるという。Bush 大統領は 2000 年の大統領選挙において、リバタリアンの有権者の票の 72% を獲得、民主党対立候補の Al Gore 副大統領（当時）は 20% を獲得した。しかし

<sup>1</sup> リバタリアニズムが追求する自由とは、基本的に他からの制約や束縛がない点で、消極的自由を指している。

<sup>2</sup> David Boaz and David Kirby, *Policy Analysis*, No.580, October 18, 2006, Cato Institute.

<http://www.cato.org/pubs/pas/pa580.pdf>



2004年の大統領選挙では Bush 大統領の獲得したリバタリアン票は 59%に減少、民主党候補の John Kerry 上院議員は 38%を獲得している。

同報告書によると、リバタリアン系保守層はその徹底した個人主義的信条の故に組織化していないものの、リベラル主義にも保守主義にも属さない特殊な有権者層であると言う。Bush 政権の下でリバタリアンの共和党に対する支持が減少した理由としては以下を挙げている。①巨大な財政支出、赤字の継続、②社会的不寛容（同性愛者の結婚反対、移民不寛容政策など）、③市民権の侵害（対テロ戦争を巡る国家安全保障局（NSA）のインターネット、電話盗聴プログラム）、④イラク戦争（対外的武力行使）。同報告書は近年両極化が進んだ米国政治の舞台では、有権者全体の 9-14%程度を占めるリバタリアンは浮動票投票者（“swing voters”）として、選挙結果を左右するほどの大きな影響力を持ちうると結論している。

### 【共和党を支える 3 大支持基盤の分裂】

これまで共和党の政治的な優位は、保守的キリスト教徒（道徳的保守層）、ビッグビジネス、リバタリアン系保守層という 3つの異なった社会的な支持層を束ねることで実現していた。しかし本来、油と水ほど異なる 3つの支持層の内、道徳的保守層とリバタリアン系保守層の 2大支持層が、共和党の幾つかの重大な失点により、共和党離れを起こしてしまった。このことが共和党大敗の最大の理由として総括できよう。2008年の大統領選挙に向けて、共和党が再び求心力を回復できるか、民主党が今回獲得した新しい有権者層の支持をつなぎとめることができるか、注目されよう。

(担当：松村詩子)

(e-mail address : [umatsumura@us.mufg.jp](mailto:umatsumura@us.mufg.jp))

以下の当行ホームページで過去20件のレポートがご覧になれます。

<https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/site/menuitem.bd427fa51df4c80526345b1035ca16a0/>

本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。意見、判断の記述は現時点における当駐在所長の見解に基づくものです。本レポートの提供する情報の利用に関しては、利用者の責任においてご判断願います。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。

本レポートのE-mailによる直接の配信ご希望の場合は、当駐在所長、あるいは担当者にご連絡ください。